

ズワイガニ研究協議会が開催されました

7月22日に京都市でズワイガニ研究協議会が開催されました。会議には大学や水産研究・教育機構、日本海沿海府県の担当者らが参集し、日本海の底びき網漁業の最重要種であるズワイガニの調査研究結果を発表しました。

当センターからは「モモガニの脱皮に伴う体色変化と脱皮ステージ」と題して、漁期中に水揚げされるハサミの小さな成長途上の雄ズワイガニ(通称モモガニ)が脱皮するまでの間、色彩計を用いた体色測定や口内組織の観察を続けた結果、脱皮前の特徴的な変化を捉えたことを報告しました。モモガニは漁期中あるいは漁期後に必ず脱皮して商品価値の高い大型のブランド蟹(通称タテガニ)になるので、参加者から「モモガニの保護は漁業者の賛同を得やすいのでは」等の意見がありました。今後モモガニの脱皮・成長の過程を調べ、効果的な管理手法の確立に努めます。

【背景】ズワイガニ♂の脱皮

- ・甲幅約5cm以上では、1年に1回脱皮
- ・脱皮盛期：9-10月頃
- ・最終脱皮が存在 → 最終脱皮後、はさみが大きくなる
- ・雄は、個体によって最終脱皮を迎える年齢は異なる

○市場での銘柄

タテガニ (甲羅：硬い、はさみ：大)


- ・最終脱皮後1年以上が経過
- ・市場で最も価値が高い

モモガニ (甲羅：硬い、はさみ：小)


- ・通常脱皮後1年以上が経過
- ・市場価値はタテガニの約30%

フタカワ (甲羅：硬い?、はさみ：小)

- ・脱皮が近く、古い甲羅の内側から新しい甲羅の一部が見えているもの
- ・体色が**深緑色**
- ・価格はモモガニの約80%



以降も脱皮する(通常脱皮)



発表スライドの一部